



No.84 2007・7・6



ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM
発行 石川県立歴史博物館
〒920-0963 金沢市出羽町3番1号
TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836
<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/index.htm>

ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れ
き
は
く

夏季特別展 石川・福井県文化交流企画

白山

聖地へのまなざし



重要文化財 白山三社神像 白山比咩神社蔵

会 期 7月21日(土)~8月26日(日)
会 場 第1・2特別展示室
共 催 北國新聞社
開館時間 午前9時~午後5時
(入館は午後4時30分まで)会期中無休
入 館 料 一 般 700円(560円)
大学生 550円(440円)
高校生以下無料
()内は20名以上の団体料金

夏休みワークショップ

会 期 特別展期間中
会 場 第4展示室
内 容 小中学生向けの体験企画(白山クイズラリー、
修験者の衣装体験、DVD「白山」上映など)

白山講座

日時・演題 行事日程(5P)参照・全4回
会 場 学習ホール

同時開催 木村芳文写真展「白山」

会 期 特別展期間中
会 場 第3・4展示室、休憩室ほか
内 容 白山の四季を長年にわたって撮り続けてきた
写真家・木村芳文さんの作品と活動を紹介。

「白山麓再発見! 白峰まるごと博物館」

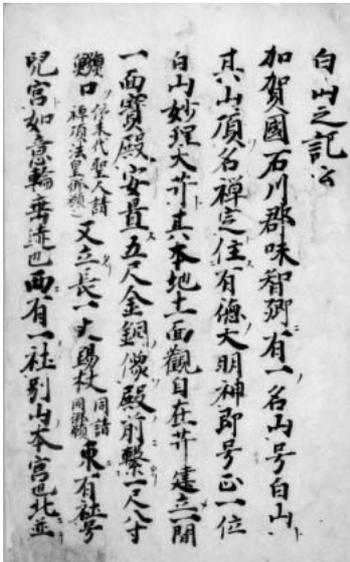
主 催 石川県立歴史博物館
石川県立白山ろく民俗資料館
会 期 8月4日(土)・5日(日)
会 場 石川県立白山ろく民俗資料館
白山市白峰地区
内 容 大壁造り民家探訪、白山ろく民俗資料館特別展
解説会、歴史放談ほか

夏季特別展

白山 聖地へのまなざし

白山をめぐる神仏と僧の物語

古代末〜中世初期の文献から、僧と「白山」の様々な関わりが見られます。例えば、真言の名僧宗叡（〜八八四没）は、比叡山の地主神の「双鳥を従わせ暗夜を照らし（苦行を助けて）徴験としよう」という告げを受けて白山に到ります。『大日本国法華経験記』や『今昔物語集』には、越中の海蓮法師が白山・立山に参向したとあります。また、越後国神融聖人が国上山の塔に落ちる雷を縛る話があります。『泰澄和尚伝』では、神融を泰澄のこととしています。文献には駿河国の末代や浄蔵、日泰といった人名も窺えます。このように周辺で活動する様々



重要文化財 白山之記
白山比咩神社蔵

な僧の顕験の物語から、やがて験者が特定化された「泰澄」像が形成されたと考えられます。これらの僧の行動範囲は一國に留まらず、都鄙を往還するものでした。

白山は泰澄によって開かれた、と言われます。宗教的目的地で山頂に到達した最初の人物が泰澄という人物であったが、実証するのは困難です。後世に記された「泰澄」像には複数の山岳で苦行する僧の姿が投影されていたと考えるべきでしょう。泰澄の实在を積極的に肯定するかどうかは、過去も現在も、加賀馬場と越前・美濃馬場とは立場が違います。泰澄が生没したとされる越前と、泰澄の母伊野姫の出身地を主張する美濃が、泰澄の存在を前提にしているのに対して、加賀馬場最古の縁起『白山之記』では泰澄の位置づけは小さいものです。しかし見方を変えれば、本来泰澄との関係が薄かった加賀馬場においても泰澄伝を取り込まなければならなかったほど、中世人にとって「泰澄が白山を開いた」ということが常識的見解になっていったといえるでしょう。

『白山之記』『泰澄和尚伝』は、ともに中世においてそれぞれ加賀・越前の立場から描かれた古い縁起であり、その時代の馬場の主張を色濃く表しています。十二世紀半ばに成立した「白山上人縁起」(本朝統文粹)によれば、白山筭笠神宮寺で活動す



同 臥行者坐像



重要文化財 泰澄大師及二行者像
泰澄大師坐像
大谷寺蔵(展示品は複製)



同 浄定行者坐像



福井県指定文化財 十一面女神坐像 八坂神社蔵

る西因にとつての白山妙理権現は阿弥陀であり、衆生の極楽浄土を願つたものでした。異説はあるにしろ、『白山之記』成立の頃には白山妙理大菩薩を十一面観音、太男知(大汝)を阿弥陀如来、別山を聖観音にあてるのが一般的になるようです。主神の本質を十一面観音とすることから白山の山内は補陀落浄土とみなされる一方、阿弥陀信仰も含みこんであり、後の時衆や浄土真宗伝播の共通の素地となつていったと考えられます。

また、形成されつつあつた「神道」の影響を受けながら、神と仏の関係は中世を通して変化しつづけます。伊弉諾神・伊弉冉神の国生みの物語に白山も取り込まれていくのです。その中で、伊弉冉神・伊弉諾神を合せて祀つたり、加賀馬場では白山の主神である比咩神を菊理媛としたり、となります。



重要文化財 女面
長滝白山神社蔵

神も仏も常に揺れ動いていました。中国・朝鮮半島を経由して入つてきた仏教は、哲学の域にも達する高度な論理を持つていましたが、その一方で諸国の神的なものを取り込む余地を持つていました。日本の神は古代において天皇を中心とした物語に編成されましたが、論理的には未熟であり、仏教論理の影響を受けて中世に「神道」が形成され、独自の世界観が生み出されます。この分野の研究はこれからであり、私の手に負えるものではありませんが、「忘れられた日本文化の基層」をたどるためだけでなく、各時代の人々が何を白山の神仏に求めたのかを探る展覧会になつてくれればと思います。

(学芸主任 小西洋子)



石川県指定文化財 白山曼荼羅 能美市蔵



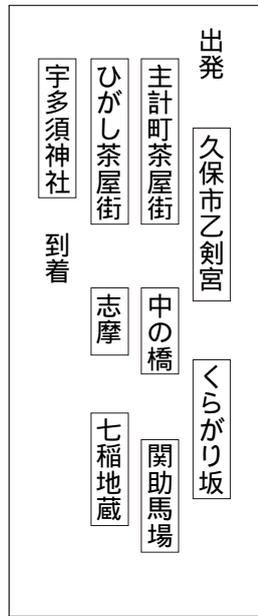
重要文化財 十一面観音立像
林西寺蔵

歴博特選・おすすめの歴史散歩コース(1)

浅野川周辺を歩く

本館では、毎年「れきはくメイト」を対象に「歴史散歩」を開催しています。そこで今回から、今まで廻った散歩コースのうち、特におすすめのコースを随時紹介していきましょう。

さて、今回紹介するのは、平成十八年春におこなった、久保市乙剣宮を出発して宇多須神社に至る「浅野川散策コース」です。



「久保市さん」の愛称で親しまれている神社。この境内には「泉鏡花出生の碑が残されており、江戸時代は人持組西尾隼人の屋敷がありました。

くらがり坂
久保市乙剣宮の左奥から、主計町茶屋街を通過して浅野川大橋に抜ける階段。

主計町茶屋街

加賀藩土富田主計重家の邸宅があったことから、この名が付いたといわれています。

中の橋

小橋と浅野川大橋の間にある白木造りの歩行者専用の橋。人通りも少なく情緒ある雰囲気を楽しめます。

関助馬場跡

三代藩主前田利常の頃、御徒組博労支配兼馬具支配の佐野関助が荒廃した馬場を再興したことからこの名が付きました。

ひがし茶屋街

文政三年(一八二〇)正式に遊郭とされましたが、天保二年(一八三一)に廃止されました。しかし、



慶応三年(一八六七)年に再興され、東新地と改称、東の郭とも呼ばれ、現在では茶屋街として国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

志摩

文政三年(一八二〇)に建てられたお茶屋で、国の重要文化財にも指定されています。二階を客間とし、押し入れや物入れ等は作らず、あくまでも遊興を主体とした粋な造りになっています。

七稲地蔵

安政五年(一八五八)の六月から三ヶ月間冷雨が続き、大飢饉となって米価は高騰しました。七月十一日、十二日の夜、民衆約二千人が卯辰山に登り、金沢城に向かって大声で泣訴した、いわゆる「安政の泣き一揆」で、この首謀者七人が処刑あるいは獄死しました。これらの冥福を祈って建立されたのが七軀の地蔵です。

宇多須神社

慶長四年(一五九九)、藩祖前田利家が没した後、二代利長が高岡の海老坂八幡宮(現・物部八幡宮)と氷見阿尾の榊葉神明宮とを、この地に併祀しました。当時、この地にすでに祀られた卯辰社は利家を祀る卯辰八幡宮になりましたが、明治六年(一八七三)、旧藩士によって金沢城出丸金谷御殿跡地へ遷座され、尾山神社となりました。その結果、卯辰社が再び宇多須神社となったのです。

(学芸主査 永井 浩)

寺町界隈を歩く・春の歴史散歩



5月11日、春の歴史散歩を実施。今回は室生犀星記念館を振り出しに、西茶屋街、六斗広見、伏見寺、妙慶寺など、寺町界隈の12カ所を散策しました。

5月11日、春の歴史散歩を実施。今回は室生犀星記念館を振り出しに、西茶屋街、六斗広見、伏見寺、妙慶寺など、寺町界隈の12カ所を散策しました。

ボランティア研修



4月16日から、歴史体験コーナーのボランティア研修を実施。今年度上半期は近現代編で、4名の方が受講されました。利用者のピークを迎えるゴールデンウィーク前後には、連日小学生を相手に、ボランティアの皆様も大活躍、本当にお疲れ様でした。また、10月からは原始古代編に模様替えます。参加ご希望の方は、ただ今研修予約受付中です。

4月16日から、歴史体験コーナーのボランティア研修を実施。今年度上半期は近現代編で、4名の方が受講されました。利用者のピークを迎えるゴールデンウィーク前後には、連日小学生を相手に、ボランティアの皆様も大活躍、本当にお疲れ様でした。また、10月からは原始古代編に模様替えます。参加ご希望の方は、ただ今研修予約受付中です。

催事日録

6月1日、春のバスツアーを実施。今回は福井方面へ足をのぼし、一乗谷朝倉氏遺跡、泰澄ゆかりの大谷寺、そして「白山展」開催中の福井県立歴史博物館をまわりました。各施設で詳しい案内もいただき、充実した一日でした。さて、秋のバスツアー（群馬県）は11月の予定で、現在準備を進めています。どうぞご期待下さい。



6月1日、春のバスツアーを実施。今回は福井方面へ足をのぼし、一乗谷朝倉氏遺跡、泰澄ゆかりの大谷寺、そして「白山展」開催中の福井県立歴史博物館をまわりました。各施設で詳しい案内もいただき、充実した一日でした。さて、秋のバスツアー（群馬県）は11月の予定で、現在準備を進めています。どうぞご期待下さい。

昭和の資料は圧巻。会場内では新しい「昭和の世界」に酔いしれた36日間でした。



5月26日、春季特別展「昭和ワンダーランド」が盛況のうちに閉幕しました。所狭しと並べられた昭和の資料は圧巻。会場内では新しい「昭和の世界」に酔いしれた36日間でした。

福井歴博「白山展」を見学・春のバスツアー

昭和ワンダーランド展閉幕

行事日程（7～9月）

月日	行事	内容
7/21(土)	れきはくセミナー (白山講座)	中世白山信仰をとりまく世界 (学芸主任 小西洋子)
7/28(土)	記念講演会 (白山講座)	白山信仰の源流 講師 立命館大学教授 本郷真紹氏
8/5(日)	常設スポット解説 (学芸主任)	中世の信仰と社会(曹洞禅を中心に) (学芸主任 小西洋子)
8/18(土)	れきはくセミナー (白山講座)	白山信仰の仏神像 (学芸主任 北春千代)
8/25(土)	記念講演会 (白山講座)	中世後半の白山衆徒について 講師 小松短期大学准教授 由谷裕哉氏
9/2(日)	常設スポット解説 (学芸主任)	懸仏への祈り(学芸課長 戸淵幹夫)
9/15(土)	れきはくセミナー (学芸主任)	三代藩主前田利常の誕生 (学芸専門員 濱岡伸也)

開講時間：午後2時
会場：学習ホール 常設スポット解説は、8・9月ともに第1会場
受講料：無料 常設スポット解説のみは無料ですが、他の展示もあわせて観覧の場合は入館料が必要です。
申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。

人事異動

転入
 総務課 主任企画管理専門員 桂 修
 (金沢城・兼六園管理事務所より)

転出
 普及課 普及課長 前田武輝(文化振興課より)

総務課
 総務課長 北川勇世(保健環境センターへ)
 主事 能登八千代(県立大学へ)
 学芸主任 大門 哲(文化振興課へ)

新 任
 資料課 館長 脇田晴子
 副館長 新宅 剛
 総括学芸主任 高橋 裕
 総務課長 清谷幸博
 学芸主任 北春千代(再任用)

退 職
 館長 徳田寿秋
 副館長 北春千代
 学芸専門員 長谷川孝徳

れきはく
トリヴィア

テーマ模型の謎

第1展示室（原始～近世）の片隅に鎮座する「テーマ模型」たちのことを、皆さんご存じでしょうか。全部で3つあるのですが、まあ、目立たないです…。この貴重なカラーページを使っても、単色でしかご紹介できない、本当に地味な、白い石膏造りの模型です。さて、どんな意味があるのでしょうか？

時代順にご紹介しましょう。まず原始コーナー「玉作りの人々」。これは塚崎遺跡（金沢市）で発見された玉作り工房をモデルに、竪穴式住居内で碧玉製の宝玉類を作る人々を復元したものだ。次に中世コーナー「壺を焼く人々」。これは日本海沿岸に広く商圏を確立した珠洲焼を取り上げ、珠洲市法住寺窯や西方寺窯の調査をもとにして、陶器作りの様子を表したものだ。そ



玉作りの人々

して近世コーナー「塩作りの人々」は、加賀藩の専売事業として、その収入の大きな部分を占めた塩作りの様子を、今も残る揚げ浜塩田の作業をもとに復元したものです。



壺を焼く人々

うなんやあ」という声も聞こえてきそうですが、今度来られた時には、このテーマ模型たちをじっくり見てやって下さい。

ところで、テーマ模型には近世に続く近代のものはないのでしょうか。近現代コーナーのある第2展示室には、それらしきものはありませんが、さて？

正解は第3棟第5展示室の金沢製糸場。ここでは前時代とは対照的に、大きく実物大で表現されています。



塩作りの人々

つまり、これらは郷土史の中で、「もの作り」という観点から各時代をわかりやすく象徴し、ひと目でその様子をうかがえるようにしたものでした。

次回の展覧会

石川県立美術館コレクション展

日本の美 人・鳥・花そして風景

9月4日(火)～20日(木) 第1特別展示室
日本美の特徴の一つである花鳥風月、故事人物などをテーマとした多彩な表現をご鑑賞下さい。

石川県立美術館コレクション展

古九谷と石川の工芸

9月4日(火)～26日(水) 第2特別展示室
9月29日(土)～10月14日(日) 第1特別展示室
石川を代表する色絵磁器・古九谷をはじめ、工芸各分野(陶磁・漆工・染織・金工・木竹工)の名品の数々をご鑑賞下さい。

秋季特別展

石川のお宝史 名宝から文化財へ

9月29日(土)～11月11日(日) 第1特別展示室
文化財は博物館の「お宝」です。石川県の文化財をめぐる歴史やエピソードを通して、「お宝」としての「文化財」を考えてみましょう。

展示替えによる休館日(7～9月)

7月19日(木)～20日(金) 2日間

8月27日(月)～28日(火) 2日間

9月27日(木)～28日(金) 2日間

本多の森から

第3展示室の白山麓民家には、古い柱時計があります。開館当初は元気に時を刻んでいたのですが、数ヶ月後にどうしても動かなくなりました。そのまま20年の歳月が流れていました。ところが先日ふとしたことで動き出したのです。ちょっと不思議な話…。

この春より脇田晴子新館長を迎え、歴博も新体制でスタートしました。今年度も展覧会や催物が盛り沢山です。皆様のご来館をお待ちしています。

トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識